

日本地衣学会

No.75

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 日本地衣学会第6回大会(二次案内)／大会準備委員長……………267
 訃報 頼明洲(1949-2007)氏の冥福を祈る／原田浩……………269

日本地衣学会第6回大会(二次案内)

The 6th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology (2nd Circular) / by H.Obata

小幡 斉：大会準備委員長

今年度大会の第二次案内をお届けします(一次案内は学会ホームページに掲載)。今回は、参加および発表申し込みに関する重要な情報が掲載されています。今大会への参加を希望される方は、必ず精読して下さるようお願いいたします。

なお、講演申込の〆切は6月2日、大会参加申込の〆切は6月16日です。

1. 会期 2007年7月7日(土)～8日(日)

2. 会場

関西大学 千里山キャンパス (〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35)

(<http://www.kansai-u.ac.jp/Guide-j/mapsenri.html>)

凜風館 3階小ホール (7月7日)

第4学舎 第4実験棟 3階 3B教室 (7月8日)

3. 交通アクセス

阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩5分 北口がおすすめです。

(<http://www.kansai-u.ac.jp/Guide-j/access.html>)

4. 日程

7.7(土)

10:00-12:00 評議員会(凜風館 会議室)

11:00- 参加者受付開始(凜風館 3階 小ホール前)

12:00-12:50 昼食(凜風館 会議室)

13:00-14:50 日本地衣学会総会(凜風館 小ホール)

15:00-17:45 公開シンポジウム「生物の共生関係の多様性」(凜風館 小ホール)

18:00-19:45 懇親会(100周年記念会館 紫紺)

7.8(日)

8:30- 参加者受付、午前発表者受付開始(第4実験棟 3B教室前)

9:30-12:00 一般発表(3B教室)

12:00- 午後発表者受付開始

12:00-13:00 昼食

13:00-17:00 一般発表(3B教室)

5. 公開シンポジウム

「生物の共生関係の多様性」

- 1) 「木材腐朽菌と外生菌根菌の炭素代謝機構の差異」
／服部武文 (京大 生存圏研究所)
- 2) 「菌根菌マツタケはなぜ人工栽培が難しいのか、その核心に迫る」
／寺下隆夫 (近畿大 農)
- 3) 「緑の地球の古今の立役者 ーランソウと遺伝子改変植物ー」
／小林 昭雄, 岡澤淳司, 梶山慎一郎 (大阪大 院・工)
- 4) 「地衣類における共生」
／岡本達哉 (高知大 理)

6. 大会参加申し込み

- ・大会参加申し込みを5月1日より受け付けます。
- ・学会ホームページ内の「大会第二次案内」ページの下から大会参加申込書(RTF, PDF, Word)をダウンロードし、必要事項をご記入の上、大会準備委員会宛に、E-mail 添付文書, FAX あるいは郵送にてお申し込みください。参加申し込みと講演申し込みは別になっております。

参加費	一般会員	3000円	非会員	5000円
	学生会員	1000円	非会員	2000円
懇親会	一般会員	3500円	非会員	5500円
	学生会員	1500円	非会員	2500円

7月7日および8日の弁当を用意できます。(注意: 今年度は両日ともに事前にお弁当の注文をお願いいたします。)

なお、7月7日(土)は、大学内の食堂およびコンビニエンスストアは開いています。

7. 一般発表(形式および発表申し込みについて)

1) 講演申込

申し込み期間は5月1日から6月2日まで受け付けます。発表申込書は、学会ホームページ内の「大会第二次案内」ページの下からダウンロードできます。発表申込書が必要な方は大会準備委員会へご連絡ください。

各発表者の代表者は、発表に関して以下の内容を発表申込書に記載の上、大会準備委員会宛に E-mail, 郵送あるいは FAX にてお申し込み下さい。

- (1) 発表者と所属(全員), (2) 演題, (3) 連絡先(代表者の住所, E-mail, FAX, 電話)

2) 形式

(1) Windows または Mac で作成した Power Point ファイル, またはそれを PDF にしたもの (2) OHP

(1) の場合は、パソコン持参(特に Mac の方)あるいは USB にてファイルをお持ち下さい。試写できる場所を用意いたします。

発表要旨は E-mail 添付文書, または印刷したものを郵送にて受け付けます。

要旨原稿は、Windows または Mac で作成した Word 文書または PDF 文書とします。

発表申込者は、学会ホームページ内の「大会第二次案内」ページの下から要旨ファイル(RTF, PDF, Word)をダウンロードできます。原稿用紙が必要な方は、大会準備委員会へご連絡下さい。

3) 要旨の書き方

(1) 右上枠(文字の大きさは 14 ポイント, 文字フォントは明朝, 英語の場合は Times New Roman, 左詰めとする)

・演題

・発表者氏名と所属 発表者複数の場合には演者の左に○印をつける。所属が異なる場合には、* を用いて区別すること(例参照)

例:

食用地衣類の不凍タンパク質に関する研究

○関大太郎*, 近畿次郎** (*関西大・工, **近畿大・農)

(2) 本文

文字の大きさは 10.5 ポイント, 明朝体, 1 行 40 字で枠内に入るようにお書き下さい。その他の体裁に付き

ましては発表者にお任せいたします。

8. スケジュール（申し込み締め切り等）

5月1日（火）参加申し込み，一般発表申し込み，要旨受付開始

6月2日（土）一般発表申し込み締め切り

6月9日（土）要旨締め切り

6月16日（土）参加申し込み締め切り

9. 連絡先

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

関西大学 化学生命工学部 微生物工学研究室

日本地衣学会第6回大会準備委員会

小幡 斉（準備委員長）

河原秀久（庶務担当）

連絡は庶務担当にお願いいたします。

TEL 06-6368-0832; FAX 06-6388-8609

e-mail:kawahara@ipcku.kansai-u.ac.jp

訃報

頼 明洲（1949-2007）氏の冥福を祈る

Obituary. Dr. Ming-Jou Lai (1949 – 2007) / by H.Harada

原田 浩：千葉県立中央博物館

頼 明洲（Ming-Jou Lai）博士は、2007年4月23日、肝臓癌にてご自宅のある台中市内の病院にて永眠された。



頼 明洲氏。2005年4月15日，玉山国家公園内にて。

頼（ライ）さんは、台湾では唯一の地衣学者であった。正確には彼は台湾で2番目の地衣類研究者であるが、彼よりわずかに先行していた王貞容（Jen-Rong Wang Yang）氏は培養の研究や、台湾の地衣類相に関して論文を発表されたが、その期間は1968年から1973年とごく短いものであった。これを継いで実際に台湾の地衣フロアの解明を進められたのは頼さんというわけだ。1970年代からウメノキゴケ科、広義サンゴゴケ属、ハナゴケ属等の多数の論文を執筆され、台湾の地衣類相解明と分類学的研究に積極的に取り組まれた。また、日本を始めとする海外の地衣類研究者の調査を助けることで、ご自身が得意とされない分類群についての知見を得ようとしていたようである。特に近年はオランダのAptroot氏を助け、共著論文が発表され、台湾の地衣フロア解明を進められていた。

頼さんには多くの顔があった。地衣類の分類学者であるとともに、蘚苔類の分類学者でもあった。また、もともとは林学の出身であり、種子植物への憧憬も深い。職務上は、景観生態学者として、

輔仁（フージェン）大学と東海（トゥンハイ）大学（日本の「とうかいだいがく」とは異なる）の景観設計の教鞭をとられていた。また、この専門を生かしたビジネスも幾つか展開されていた。2005年からは、本学会誌 *Lichenology* の編集委員を務められていた。

私が頼さんと初めて出会ったのが何時だったかは、正確には覚えていないが、私が広島大学大学院生のときであったことは確実で、在学中に何回か訪問されていたと思う。私の所属していた講座は、植物分類生態学講座で、歴代の教授が蘚苔類の分類を専門とされ（私が博士課程前期当時の教授は安藤久次先生、博士課程後期当時は岩月善之助先生であった）、この分野では世界的に有名な存在であったことから、海外の蘚苔類学者が多数訪れていたが、頼さんもその一人であった。学生たちと、広島大学の東千田キャンパス（当時、理学部は広島市中区東千田町にあった）近の正門前のお好み焼き屋さんに出かけたこともあった。そんなことから当時、私は頼さんのことを蘚苔類学者として認識していたかもしれない。

しかし彼のことを更に知るのには、私が就職して2年目の1989年の秋だった。黒川道氏（当時国立科学博物館筑波実験植物園長）を隊長とする海外調査の一員として、台湾調査に私が参加したときだった。そのときは私の初めての海外調査であったことから、深く記憶に残る旅となった。頼さんは当時、台北に住まれ、そこから比較的近い輔仁大学の景観設計学系主任であるとともに、台中にある東海大学の景観学系兼任副教授であっ

た。さて頼さんが手配してくれた台北駅近くのホテルを基地に、台湾各地への旅に出ることになった。頼さんは大学の講義や様々な職務があるため、最初の墾丁行きは調査と、最後の北插天山（塔開山）にだけ同行して下された。墾丁では、まず、国家公園管理処への表敬訪問。このとき、頼さんの、この方面での顔の広さを知った。頼さんは、国立台湾大学の林学の出身であるのだが、多数の同出身者が台湾各地の国家公園等に席を置いているのだという。頼さんはお忙しいなかでも、我々が台北に滞在中には、あちこちを案内して下さった。その献身的なサービス振りには頭が下がる思いだった。この旅では、地衣類以外にも中華料理、台湾料理、台湾ビール、凍頂烏龍茶、等々、台湾を堪能させていただいた。

2005年には、科研費の研究テーマに伴う調査の目的で、私は単身で台湾を訪れる機会を得た。3度目の台湾であった（このときの様子については本誌53, 55, 60号に紹介した）。台北の北に位置する陽明山に到着した初日には、温泉で頼さんと語った。彼は胸にある大きな手術跡を見せてくださり、何年前に死にそうになったこと、その後は、人のために手助けをしたい気持ちが強まったことなどを話してくれた。・・・かく言う私は頼さんに世話になりっぱなしだった。

2005年訪台時の写真を見ていると、「はい、原田さーん」という彼の声が、今にも聞こえてきそうである。さようなら頼さん。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 62, p. 222 of this publication.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 75, pp. 267-270: ed. Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 20 May 2007.

日本地衣学会ニュースレター 75号

発行日：2007年 5月 20日

編集：原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城の中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2007 日本地衣学会 (© 2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。